



川と人

Vol.46



CONTENTS

○ご挨拶.....02

(一財)石狩川振興財団 理事長 原 俊哉

○特集Ⅰ 石狩川治水促進期成会創立 70 周年
～流域連携による石狩川治水～.....03

○特集Ⅱ 石狩川振興財団の 30 年.....18

○河川トピックス.....26

- ・流域治水の実践を加速
- ・「新たな北海道総合開発計画」を前倒して策定へ
- ・「かわたびほっかいどう」が新展開

○令和 3 年度 河川・海岸協力団体の取り組み...28

○石狩川振興財団の活動報告.....30

- ・流域環境保全活動
- ・河川教育活動
- ・NPO・市民団体等への支援・助成
- ・市町村河川情報委員情報交換会議
- ・石狩川流域圏会議

ご挨拶



一般財団法人 石狩川振興財団 理事長
原 俊哉

石狩川振興財団は、北海道の河川とその周辺地域との結びつきを深め、河川流域の健全な発展に寄与することを目的として、平成4年に設立されました。（当初は公益法人、平成23年に一般財団法人に移行）

この目的を達成するため、設立以来、様々な活動を行っています。その主なものは、川と地域に関する情報の整備・提供、河川関連事業の支援、川を活かした地域振興計画の立案、流域市町村やNPO等と連携した流域環境保全活動や河川教育活動、などです。さらに、平成23年度からは、石狩川流域の全46市町村長で構成される「石狩川流域圏会議」と連携して、流域圏全体の活性化を目指した取組みを進めています。

さて、本年は、石狩川治水促進期成会創立70周年と石狩川振興財団設立30周年にあたる記念すべき年です。これを機会に「川と人」第46号では、二つの特集を組むこととしました。

一つ目の「石狩川治水促進期成会創立70周年」については、直近10年程度に注目して特集しています。平成28年豪雨をはじめ、気候変動の影響が北海道においても現実のものとなってきており、それを踏まえた河川計画の見直しや全国的な「流域治水」の取組が始まっています。一方で洪水対策のみならず、地域の発展のためにも、流域の視点や地域・関係機関の連携が重要視されるようになり、前述の「石狩川流域圏会議」や、河川に係わる活動を通じて流域の活性化や振興を図る「かわたびほっかいどう」の取組も進んでいます。これらの様々な動きを概観するとともに、石狩川流域の各期成会長等の首長さんに書面インタビューを行いました。

さらにもう一つの特集である「石狩川振興財団設立30周年」については、当財団のこれまでに30年分まとめて振り返っています。広報誌「川と人」の創刊にはじまり、市町村河川情報委員制度の発足や、石狩川クリーンアップ作戦、280万本植樹運動、さらに「川の科学館」等での河川教育活動、等々、これまでの活動を駆け足でまとめました。編集を終えて、簡単には言い尽くせない活動の多様さと、同時に、当財団の各先輩方のご尽力はもとより、国や道、流域市町村やNPO等の皆様のご支援、ご協力の大きさを実感しています。関係する皆様に心より感謝を申し上げますとともに、このつながりを当財団の財産として、これからも大切にしていきたいと改めて思います。

新型コロナウイルスやウクライナ情勢、気候変動、さらにそれらに関わる様々な影響など、先行きが見通せない昨今ですが、じっくりと過去を振り返る機会に恵まれました。この振り返りを貴重な歴史、経験として、これからの財団活動に活かしていきたいと思っておりますので、引き続きのご指導、ご支援をお願い申し上げます。

令和4年8月

特集 I

石狩川治水促進期成会創立70周年 ～流域連携による石狩川治水～



石狩川治水促進期成会は、昭和24年(1949年)の創立から、活動を休止していた3年間を除き、令和4年(2022年)で70周年を迎えました。

60周年では、『川と人35号』にて、石狩川治水100年の歩みと、石狩川の恵みを受けて発展した石狩川流域の姿等を紹介しました。

それから10年。今、河川行政は大きな転換期を迎えています。

激甚化・頻発化する豪雨災害に備えるため、河川を介して流域全体の活性化を図るため、次なる一歩を踏み出します。

画像：上段左・夕張シューバロダムと夕張岳
上段右・舞鶴遊水地のタンチョウ(画像：長沼町)
下段左・石狩川下流当別地区自然再生地
下段右・忠別川サイクリングロード

『川と人35号』石狩川治水促進期成会60周年記念号



特集 I

石狩川治水促進期成会 70 周年を迎えて



石狩川治水促進期成会会長 滝川市長
前田 康吉 氏

石狩川治水促進期成会は、昭和 24 年の創設以来、ここに記念すべき 70 周年を迎えました。

初代会長である神部俊郎滝川町長の呼びかけのもと創設した本期成会は、加入市町村の再編や活動休止期などもありましたが、多くの方にご指導とご協力をいただき、また、支えられながら会員市町村が一致団結して、活発な活動を展開してまいりました。これまで活動に携わって来られた方々をはじめ、ご協力、ご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

石狩川の計画的な治水事業は、明治 43 年に始まってから今年で 112 年を迎えます。この 1 世紀を越える間に、石狩低平地は湿原から日本を代表する穀倉地帯に変貌し、周辺人口は北海道のほぼ 6 割を有する、北海道の政治、経済、産業、文化の中心となりました。

この発展に治水事業は大きな役割を果たしましたが、昭和 50 年、56 年、63 年と大洪水に見舞われ、流域住民はその都度、洪水と闘い、生命を守り、産業基盤、生活基盤の再建に努力して参りました。

その後も、石狩川流域では、平成 26 年、28 年、30 年と豪雨災害が頻発しており、平成 28 年夏には、2 週間に 4 つの台風が北海道に相次いで上陸・接近するという、これまでに経験したことのない異常事態となり、直轄河川での破堤に至りました。この氾濫により、地域社会や農林業、観光に甚大な被害をもたらし、その影響は野菜価格の高騰や加工品における原材料不足として全国に波及しました。

ここ数年においては、幸いにも北海道への台風上陸はないものの、これまでにない規模の大雨による被害が後を絶たない状況は続いております。

期成会と致しましても創設以来、石狩川の治水事業促進に向けて、活発な活動を展開してまいりましたが、我々の活動が石狩川の治水事業促進に一定程度の寄与をしていたとしたら幸甚であります。

近年は水災害が激甚化・頻発化の傾向を示しており、このような中で、当期成会が果たすべき役割はますます重要なものになってきていると感じております。今後は、日本各地で発生している豪雨・土砂災害にも目を向け、石狩川流域が一丸となって危機管理等に取り組むことはもとより、豊穡の恵沢をもたらす「母なる石狩川」の流域が持続的に発展することで我が国全体に貢献し、人々の暮らしに潤いと安らぎを与える存在であり続けられるよう、恒久的な治水対策の実現に向けて積極的な活動を続けて参ります。

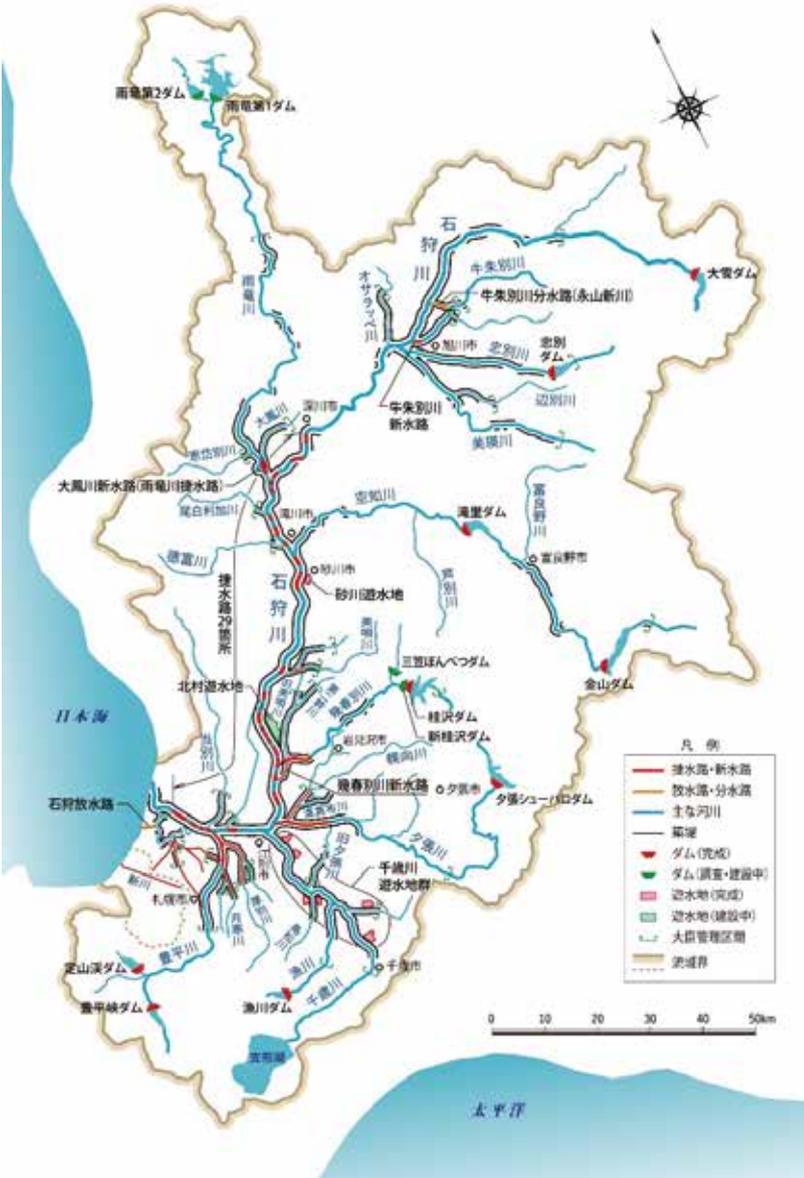
石狩川治水促進期成会 70 周年を迎えるにあたり、貴重なご寄稿を賜った各位をはじめ、取りまじめにご尽力いただいた石狩川振興財団ほか関係機関の皆様にも心から感謝申し上げます。今後とも当期成会にお力添えとご支援をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

特集 I
Part.1

石狩川流域を取り巻く最近の動き

1. 石狩川治水の現状

現在の石狩川の治水事業は、未曾有の大水害となった昭和56年8月洪水を安全に流すことを目標に、河道の掘削、浚渫、堤防、ダム、遊水地等様々な対策が実施されています。最近では、平成27年には夕張シューパロダムが、令和2年には千歳川遊水地群が完成し、幾春別川総合開発(新桂沢ダム・三笠ぼんべつダム)、北村遊水地、雨竜川ダム再生等の事業が鋭意進められています。



主な治水事業

- 上流：牛朱別川分水路（永山新川）
大雪ダム
忠別ダム
- 中流：大鳳川新水路（雨竜川捷水路）
金山ダム
滝里ダム
砂川遊水地
桂沢ダム
幾春別川新水路
夕張シューパロダム
- 下流：漁川ダム
千歳川遊水地群



2013年9月
↑大夕張ダムと夕張シューパロダム（画像：札幌開発建設部）



↑舞鶴遊水地（画像：札幌開発建設部）

- 豊平峡ダム
- 定山溪ダム
- 石狩放水路
- 伏龍川総合治水

現在推進中の治水事業

- 幾春別川総合開発事業（新桂沢ダム・三笠ぼんべつダム）
- 北村遊水地事業
- 雨竜川ダム再生事業



↑建設中の新桂沢ダム（画像：札幌開発建設部）



↑北村遊水地事業（画像：札幌開発建設部）



↑雨竜川ダム再生事業により高上げされる雨竜第2ダム

特集 I
Part.1

2. 激甚化・頻発化する豪雨災害

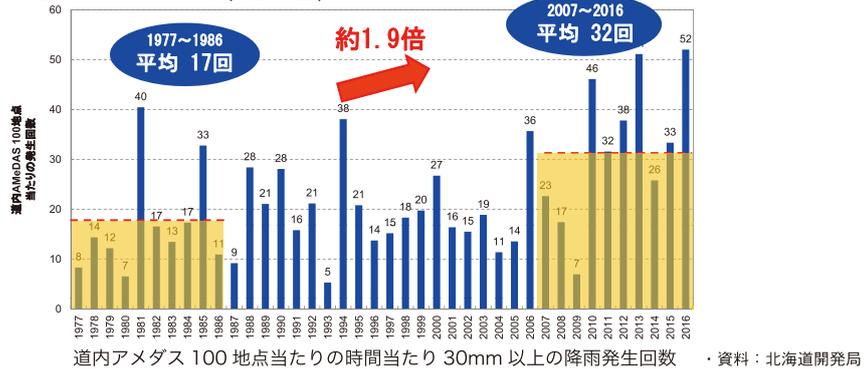
近年、我が国においては豪雨災害が激甚化・頻発化しており、石狩川流域でも毎年のように集中豪雨が発生しています。気候変動の影響が特に大きいと予測される北海道において、それを考慮した治水計画の見直しや、あらゆる関係者が協働した治水対策の取組が急務となっています。

近年の主な自然災害と石狩川流域の水害

年	主要な自然災害 (青) と石狩川流域の水害
H23	3月 東日本大震災
	9月 停滞前線による大雨に伴う出水 (豊平川が増水し河川敷公園が一部浸水)
H24	9月 前線を伴う低気圧による降雨で、岩見沢市で観測史上1位となる最大1時間降水量を観測、家屋等で浸水被害
H25	4月 融雪及び低気圧による降雨に伴う出水
H26	9月 低気圧に伴う出水 (札幌市民約78万人を対象に避難勧告発令)
H27	9月 関東・東北豪雨 (鬼怒川等大規模水害)
H28	4月 熊本地震
	8月 北海道・東北豪雨 (台風の連続上陸と台風接近による記録的な大雨で昭和56年水害以来の甚大な被害)
H29	7月 九州北部豪雨
H30	7月 西日本豪雨 (浸水や土砂崩れ)
	9月 北海道胆振東部地震 (厚真町で震度7、全道でブラックアウト)
	7月 大雨による出水 (旭川市や深川市で浸水被害)
R元	9月 房総半島台風 (大規模な停電)
	10月 東日本台風 (千曲川等で堤防決壊)
	8月 前線を伴う低気圧による出水

*石狩川流域の水害：北海道開発局札幌開発建設部近年の災害・洪水情報、洪水被害より

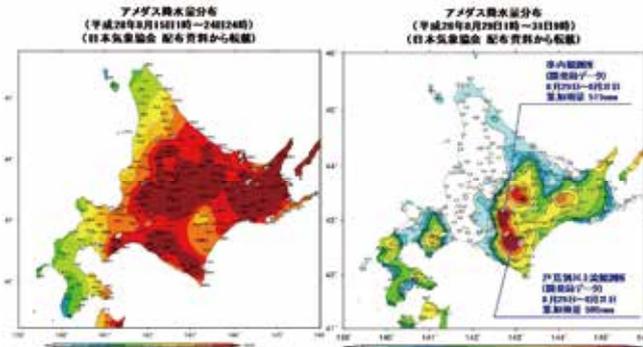
《近年の降雨の状況 (北海道)》



平成28年8月北海道・東北豪雨災害



↑空知川 (南富良野町) の堤防決壊 (平成28年8月)



↑平成28年8月20日からの大雨及び台風第10号による出水の概要より

資料：北海道開発局

8月に3つの台風が連続して上陸し、さらには台風10号の接近・通過という北海道ではこれまで経験したことのない事態により、道東を中心にほぼ北海道全域で大雨となり、空知川の上流の串内雨量観測所では8月29日から8月31日までの累加雨量が515mmを超えるなど、各地で記録的な豪雨となりました。この年の8月は、道内アメダス225地点中89地点で、月の降水量の極値(1位)を更新しています。この雨により、十勝川水系、常呂川水系などに大きな被害をもたらすと同時に、石狩川水系では8月28日に深川市納内町と旭川市神居古潭で浸水被害が発生、31日には南富良野町幾寅市街地を流れる空知川左岸堤防2箇所が決壊して約130haが浸水し、住家107戸、食品加工工場等が浸水するなど、甚大な被害となりました。

特集 I
Part.1

3. 進む流域治水・流域連携

激甚化・頻発化する豪雨災害に対しては、あらゆる関係者による連携した取組が求められるとともに、地域の振興や活性化においても、広域的な連携が重要になっています。石狩川流域では、「石狩川流域圏会議」が発足し各種取組を積極的に進めるなど、河川・流域を軸とした連携において全国をリードしています。

流域治水

政府は、気候変動による災害の激甚化・頻発化を踏まえ、降雨量の増加等を考慮した治水計画への見直しや河川整備等の防災対策を加速化させることに加え、あらゆる関係者が連携・協働して流域全体で行う、「流域治水」を推進することとしました。具体策の「流域治水プロジェクト」では、利水ダムの事前放流はじめ、田んぼダムや校庭貯留、住民への水防災教育やタイムラインの普及等、地域の特性を踏まえたハードとソフトの総合的かつ多層的な施策を展開することになります。

石狩川（下流）水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】 ～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策を推進～

このインフォグラフィックは、石狩川（下流）水系流域治水プロジェクトの具体的な取組を6つのカテゴリーに分けて紹介しています。各カテゴリーには、具体的な数値や実施内容が記載されています。

- 激甚化・頻発化する豪雨災害に対応した対応の取組（取組）**：整備率 51%
- 農地・農産物生産の確保**：25市町村
- 防災対策の取組**：28施設
- 止水域の治水機能向上と土砂・洪水対策**：22箇所
- 立地適正化計画における防災対策の取組**：1市町村
- 避難のための「タイムライン」の取組**：59河川
- 高齢者等の避難の実効性の確保**：1,602施設

さらに、3つの主要な対策について詳しく説明しています。

- 氾濫をできる限り防ぐための対策**：流出抑制対策の実施、貯留施設の整備、雨水管の機能向上。
- 被害対象を減少させるための対策**：立地適正化計画の作成。
- 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策**：水害リスク情報の提供、タイムラインの普及、高齢者等の避難の実効性の確保。

※流域治水の詳しい内容は本誌 26 ページか、第 45 号を参照



↑流域治水プロジェクト具体例（資料：北海道開発局）

石狩川流域圏会議



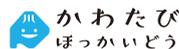
↑「石狩川流域圏会議」設立会議（平成 23 年 11 月）

設立され、流域の連携が一段と進みました。

連携の動きは治水だけにとどまりません。「流域圏」という視点に立って、地域性・独自性のある流域圏文化を育み、国内外にこの魅力を発信することで、流域圏全体の活性化を目指すため、石狩川流域全 46 市町村の首長から構成される「石狩川流域圏会議」が、平成 23 年 11 月に

活動の方向性として「観光」「環境」「エネルギー」「防災」という 4 つのテーマが設定され、以降、防災については「豪雨災害対策職員研修」、「流域連携による相互防災支援体制の構築」、観光については「サイクリングコースマップの作成」等、具体の事業が進められています。

かわたびほっかいどう



水辺の価値が見直されています。北海道開発局では、川の魅力を活かして地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的とする「かわたびほっかいどう」の推進を打ち出し、水辺に関する情報の発信、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用の促進等を進めています。

石狩川流域はわが国有数の食料基地であり、それを背景とした食、産業、歴史・文化、さらには厳しくも豊かな自然など大きな魅力があります。国内外の多くの人を惹きつけるその魅力と川を活かした観光・地域活性化には、石狩川流域圏会議が進めている河川を利用したサイクルルートの整備をはじめ、自治体間連携、流域の各種団体との連携が強く求められています。



↑地域の団体と連携した新たな観光メニューの実証実験



↑地域の団体と連携したサイクリング走行会

特集 I
Part.2

石狩川流域5首長 誌上「座談会」

石狩川治水促進期成会が70周年を迎えるにあたり、
石狩川治水促進期成会会長の滝川市長をはじめ、石狩川流域の河川整備にお力を注がれる5人の首長さんに、
石狩川の河川整備の課題や、これからの展望についてご意見を伺いました。
令和4年6月に書面でインタビューを行い、そのご回答を座談会風に取りまとめました。

※限られた紙面の中で首長さんのお話をできる限り掲載するため、重複する部分、
背景を説明した部分など、一部を割愛して編集させていただきました。

質問1 本誌で石狩川治水促進期成会60周年を特集してから10年経ちました。この10年は、これまでの石狩川の治水を取り巻く歴史の中でも、特に大きな変化・動きがあった10年ではないかと思います。まずは、災害を含め、石狩川流域のこの10年について、どう捉えられているかお聞かせください。

前田 康吉 滝川市長（石狩川治水促進期成会会長）



（画像提供：滝川市）

全国的には、東日本大震災や、毎年のように発生する災害を背景に、事前防災対策の重要性を認識させられる10年でした。国土強靱化が喫緊の課題と認識され、地球温暖化による気候変動の影響についても一般に広く知られるようになり、住民の意識も変化してきていると思います。

石狩川流域に目をやると、「流域治水プロジェクト」が策定され、流域のあらゆる関係者が協働して水災害を防ぐための取り組みを進めております。石狩川水系の主要プロジェクトにつきましては、着実な進捗を見ておりまして、特に千歳川遊水地群の整備完了は非常に大きいと思います。また、北村遊水地事業や雨竜川ダム再生事業など、石狩川水系の治水に多大な恩恵をもたらす事業につきましては、今後の着実な進捗に期待を寄せております。

今津 寛介 旭川市長（石狩川上流治水促進期成会会長）

旭川市でも、最近では平成28年8月の台風や平成30年7月の豪雨等による洪水が発生しており、人的被害はないものの、河川の氾濫による住家被害、農業被害、道路・橋梁等の土木被害などを複数回経験しており、水害の頻発化・激甚化を実感しています。

このため、河川の改修、環境整備及び河川管理施設の維持管理が重要な課題と捉えております。



（画像提供：旭川市）

特集 I Part.2

原田 裕 恵庭市長（北海道千歳川水系治水連絡協議会会長）

千歳川流域は、昭和56年水害に代表されるように水害常襲地帯です。近年では、平成26年、30年の台風により道路の冠水や住宅への浸水等の被害はありましたが、大規模な災害には至っておらず、千歳川流域の治水対策が着実に進んでいる成果であると捉えています。



（画像提供：恵庭市）

善岡 雅文 砂川市長（北海道河川環境整備促進協議会会長）



（画像提供：砂川市）

この10年で「地球温暖化による異常気象」、「ゲリラ豪雨」という言葉が当たり前に使われるようになり、昭和56年は台風の北海道上陸は1つだったのに対し、平成28年には史上初めて1週間に3つの台風が上陸し、記録的な大雨による被害が発生しました。水害の特徴の変化やそれに伴う流域治水の必要性など、水害に対する考え方に変化があった10年でありました。

質問2

それぞれの関わりの深い河川流域において、水災害の発生状況とそれへの対応はいかがでしたか、お聞かせください。

秋元 克広 札幌市長

平成26年9月11日豪雨の際には、約33年ぶりとなる札幌市災害対策本部を設置し、全市民の約4割にあたる約78万人に避難勧告を発令するなど、市民の安全を確保するための対応を行いました。幸い人的被害は発生しなかったものの、多くの物的被害がありました。今後もこれ以上の規模の災害が起こることが十分に想定され、人口・資産が集中している札幌市の安全、安心を守るためには、引き続き治水整備等により流域全体の治水安全度の向上に努めていくことが必要であると感じています。



（画像提供：札幌市広報課）

特集 I Part.2

砂川市長

砂川市では昭和 56 年の災害で市内の中小河川は氾濫し、特に中心市街地を流れるパンケ歌志内川は石狩川と直結しており石狩川の水位上昇に伴う河川氾濫により被害が発生し、その後対策が行われました。



↑平成 28 年 8 月 21 日、初めて石狩川の水が越水し洪水調節を行った砂川遊水地

平成 28 年の北海道豪雨では、その対策の効果が現れ、パンケ歌志内川の氾濫まで至っていません。また、砂川遊水地は、完成から 21 年が経って初めて石狩川から越流し効果を発揮しました。土砂崩れ・道路冠水・河川氾濫の恐れから 35 年ぶりの避難勧告を行いました。北海道開発局への内水排除用ポンプ設置の要請など対策を講じ、人的被害はありませんでした。

旭川市長

旭川市においては、平成 28 年 8 月の台風・大雨により石狩川及び辺別川が氾濫し、床上・床下浸水が 24 世帯で発生しました。この水害では 1 地区に避難勧告を、13 地区に避難準備情報を発令しました。平成 30 年 7 月の大雨では石狩川、ペーパン川、倉沼川、江丹別川が氾濫し、床上・床下浸水が 74 世帯で発生しました。この水害では 10 地区に避難準備・高齢者等避難開始を発令しています。今年も 6 月 28 日から 29 日にかけての大雨によりペーパン川が増水し、床上浸水が 2 世帯で発生しました。この水害では 1 地区に避難指示が発令されました。

これら被害の対策として、河川管理者である北海道開発局、北海道による対策を進めていただいておりますが、旭川市としても、市街地を流れる河川の水位が急激に上昇し、住宅地から河川への自然排水が困難となる状況が頻発していることから、ポンプ等による内水排除の対応に努めています。



↑平成 30 年 7 月 2 日からの大雨により氾濫したペーパン川(資料：国土交通省)

恵庭市長

平成 26 年の台風では、北海道初となる「大雨特別警報」が発令され、道路冠水、住宅の浸水等が発生しましたが、速やかな対応により、被害の拡大を防ぐことが出来ました。

また、平成 30 年 7 月豪雨の際には、整備中の北島遊水地の周辺の農業水路の水位が上昇したことから、内水被害軽減のため、遊水地の周囲堤樋門より遊水地内へ導水し、内水被害を防ぐことが出来ました。

滝川市長

石狩川流域で言えば、ここ 10 年で一番大きい水災害は平成 28 年夏の豪雨災害だと思います。2 週間に 4 つの台風が相次いで上陸・接近するというこれまでに経験したことのない異常事態で、特に空知川では南富良野町などで甚大な被害となりました。

滝川市では、床上浸水 2 戸、床下浸水 3 戸と田畑への冠水が発生しましたが、北海道開発局による迅速な TEC-FORCE(テックフォース)の派遣や排水ポンプ車などの支援をいただき、幸いにも破堤などの大事には至りませんでした。しかし、近隣での大きな被害は、水災害が決して対岸の火事ではない事を思い知らされました。

石狩川治水促進期成会としては、全道の期成会に声掛けし、オール北海道で国土交通省、財務省などへ早期の復旧要望をさせていただきました。以降、この取り組みは「北海道直轄河川合同要望」として毎年実施しております。

特集 I Part.2

質問3 それぞれの関わりの深い河川流域において、これまでの治水整備について、さらに気候変動等、今後の水防災の課題についてどのようにお考えかお聞かせください。

滝川市長

近年は水災害が激甚化・頻発化し、我々の常識を超えるものになってきており、今後は気候変動の影響も踏まえた河川整備計画の見直しに合わせた治水対策の促進や、あらゆる関係者が一体となって進める流域治水の考え方に基づくハード・ソフト一体となった取り組みが重要になってくると思います。それには住民意識の更なる向上や、継続的な財源確保が非常に重要であると考えます。

恵庭市長

千歳川流域においては、千歳川河川整備計画に基づく堤防整備、河道掘削、遊水地群整備などのハード整備を促進するなどして、流域一体となった治水対策を全国に先駆けて推進しています。遊水地群においては、令和2年度より供用を開始しているところではありますが、河道掘削、堤防強化についても早期の河川整備完了を期待しているところです。

ただ、近年の異常気象により全国的な災害なども頻発しておりますので内水被害の軽減を含め、関係機関や地域と連携を図り継続した治水対策を推進していくことが重要であると認識しています。

旭川市長

ハード面では、河川整備の一層の促進及び洪水防御の基幹となる河川管理施設の適切な維持管理や更新、さらには、気候変動による今後の大雨災害の激甚化・多発化に備えるため、流域のあらゆる関係者が協働して治水対策を推進していく必要があると認識しております。

ソフト面では、全国各地でこれまでに経験したことのない水害が毎年発生しており、避難に時間を要する高齢あるいは障がいをお持ちの方が犠牲になるケースが非常に多く見受けられます。このような避難行動に支援が必要な方々の逃げ遅れをゼロにできるよう、行政と地域が一体となって、地区ごとの防災計画や地区内の支援が必要な方々の個別避難計画の作成を進めていかなければならないと考えております。

札幌市長

札幌市では、昭和56年の記録的な豪雨により1万戸を超える浸水被害が発生し、この災害を契機として、河川改修や学校、公園のグラウンドを活用した流域貯留施設の整備などの治水対策を実施しています。札幌市の取組のほか、国や北海道の様々な治水対策のおかげもあり、昭和56年以降、札幌市の治水安全度は大幅に向上しています。

しかしながら、近年、局地的豪雨の増加や、北海道に上陸する台風の増加などがみられ、気候変動の影響により水災害が激甚化・頻発化している傾向にあることから、今後も引き続きこれまでの取組を継続するとともに、国や北海道等あらゆる関係者と連携を図りながら流域治水対策を推進していきます。



↑千歳川遊水地群の北島遊水地(恵庭市、下)と東の里遊水地(北広島市、上)



↑伏龍川流域、栄町小学校 流域貯留施設(平成8年整備。札幌市ホームページ「河川事業の紹介」より)



↑栄町小学校における貯留時の様子(平成10年9月16日台風5号。札幌市ホームページ「河川事業の紹介」より)

特集 I Part.2

砂川市長

地球温暖化の影響により短時間強雨の発生回数は増加するため、石狩川支川である中小河川の瞬時的増水に伴う内水排除の必要性と治水強化、石狩川本川上流で短時間強雨の情報把握の必要性など、気候変動の影響が特に大きいと予測される北海道での水害の激甚化への対応は喫緊の課題であり、治水と環境の両立を図る「グリーンインフラ」や流域治水の推進が必要と考えております。

質問 4

それぞれの関わりの深い河川流域において、流域治水の取り組み状況、または今後の取り組みの方向性等についてお考えをお聞かせください。

札幌市長

札幌市内を流れる石狩川水系伏籠川の流域では、都市化が急速に進み、住宅や舗装が増えたことに伴い、早急な治水安全度の向上を図るため、北海道開発局、北海道、札幌市、石狩市と連携した総合的な治水対策に、流域治水という言葉が出る以前より取り組んできました。

札幌市が取り組んできた治水対策としては、河川改修の他、雨水の流出抑制対策として、学校や公園のグラウンドを活用した流域貯留施設の整備を行っています。また、民間事業者が実施するものとして、札幌市の宅地開発に係る要綱に基づき、開発行為を行う事業者に対して一定規模の面積の開発の際に、貯留施設の整備をお願いしています。



↑総合治水推進週間パネル展、札幌市地下街等（札幌開発建設部ツイッターより）

これら以外にも、条例により災害危険区域や出水の恐れのある区域の住居の床面の高さに規制を設けるなどの対策も行っていきます。

PR活動としては、毎年、地下街等において、過去の水害や総合治水の取組を紹介するパネル展を行い、多くの市民の方々への普及啓発を行っています。

今後も引き続きこれまでの取組を継続するとともに、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を踏まえ、国や北海道等あらゆる関係者と連携を図りながら流域治水対策を推進していきます。

恵庭市長

千歳川河川整備計画に基づく堤防整備、河道掘削、遊水地群整備、市街地の宅地開発においては雨水流出抑制施設の設置の指導、水田を利用した貯留機能の向上、水害ハザードマップの更新及び全戸配布の実施、その他に町内会及び防災協定締結企業等との情報伝達訓練を実施するなどハードとソフトの取り組みを実施しております。

旭川市長

国では、石狩川水系において洪水被害を防ぐため、水位低下を目的とした河道掘削、侵食対策等を実施するとともに、北海道の生産力の中核を担う上川圏域の田んぼの貯留機能を活用した流出抑制対策やハザードマップの利用促進等の事前防災対策を進めていただいております。

旭川市の取組では、石狩川水系流域治水プロジェクトの一環である洪水被害等に伴う被災者を減少させるための対策として、子どもや高齢者等が利用する要配慮者施設と指定避難所を結ぶ道路について、災害時の円滑な避難や介助者の負担軽減を目的とした道路のバリアフリー化や歩行空間確保の整備を進めております。

特集 I Part.2

滝川市長

滝川市は、特にタイムライン防災に力を入れております。平成27年に北海道開発局・札幌管区気象台と連携して設置した「石狩川滝川地区水害タイムライン検討会」において道内初の本格的なタイムラインの取り組みをスタートさせ、以降も積極的に取り組みを続けております。

これは、「流域全体で協働して取り組む」という流域治水の目指すべき方向性と合致しており、今後も取り組みを継続するとともに、フレキシブルに見直しを行ってまいります。また、先進自治体としての発信も続けていければと考えております。



↑石狩川滝川地区水害タイムライン検討会ワークショップ
(画像：札幌開発建設部)

砂川市長

石狩川水系流域治水プロジェクトにあります「高齢者等の避難の実効性の確保」について、少子高齢化の中、動ける人が少なくなり防災力の低下が懸念されることから、砂川市保有の災害時等に使用する地図には各機関との連携を容易にするための UTM グリッド（6～10桁の数字で位置を特定できる世界標準の特定方法）を記載し、特に避難行動要支援者名簿等に所在地の UTM を把握する取り組みを進めております。さらに早い段階での情報提供による避難行動が必要であり、また治水対策が進むにつれ災害の記憶も薄れつつあるため、防災減災意識の継承を図ることが行動時の判断に大きな影響があると考えています。

質問 5

河川の利活用に関する取り組みについて、現在すでに取り組んでおられること、またはこれから取り組もうとされていることがあればお聞かせください。

札幌市長

札幌の市街を縦断する豊平川の河川敷を都市緑地として活用しています。芝生や花壇などの緑や休憩施設のほか、野球場やサッカー場、テニスコートなどの運動施設、水遊びができるウォーターガーデンやサイクリングコースなどがあり、多くの市民が訪れております。

また、都心部における広大な公共空間として、花火大会やマラソンなどの各種イベントも開催されています。

滝川市長

石狩川河川敷には、ゴルフ場、パークゴルフ場、グライダー滑空場、野球場などが整備されており、従前より積極的な利活用を図っております。また、石狩川の河跡湖であるラウネ川周辺を「池の前水上公園」として位置付け、カヌーが気軽に楽しめるほか、近年ではキャンプサイトも整備され、一体的な観光資源としての活用を目指しております。



↑B&G 滝川海洋クラブ員とふれあう前田市長（画像提供：滝川市）

特集 I
Part.2

旭川市長

旭川冬まつり等のイベントの開催や河川公園・運動公園としての整備を通じたスポーツ振興など、河川空間を地域住民の貴重な憩いの場として、河川空間の利活用に取り組んでおります。

石狩川及び牛朱別川では、市街地と河川空間の連続性を確保するため、主に石狩川の築堤の緩傾斜化を図り、常磐公園と一体となった水辺利用や、美術館や屋外彫刻などの文化芸術的資源との連携に取り組んできました。その後、新J R旭川駅が完成し、駅南側には忠別川に沿って、「あさひかわ北彩都ガーデン」を整備するなど、都心機能の充実・強化を図るとともに、河川空間などの自然と調和した取組が進められてきたところです。

近年は、忠別川など水辺空間の利活用に対する市民の熱意が高く、民間団体等による川を観光資源にするモニターツアーが実施されるなど、アクティビティの推進や、教育現場への活用にも大きな期待が寄せられています。

旭川市の大きな魅力となっている充実した都市機能と「川のまち旭川」と呼ばれる豊かな自然環境の調和という優れた地域特性を更に発展させ、旭川市民の郷土愛の醸成と、観光客等の来訪者も交流できるまちの賑わいづくりを図るため、J R旭川駅南側地区を拠点とする忠別川・牛朱別川の水辺整備・利活用により、



↑鏡池に映る旭川駅（画像：旭川市フォトライブラリー）

国土交通省の『かわまちづくり支援制度』を再度活用したいと考えています。全道サイクルルートの展開や、自然環境に恵まれたラフティング等のアクティビティの推進、行動展示で世界的に有名となった旭山動物園や、旭川市博物館・科学館といった地域特有の観光・教育資源との有機的な連携など、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指して検討を始めたところです。

砂川市長

砂川遊水地の自然環境を生かし整備された砂川オアシスパークをよりアウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として再整備するとともに、砂川遊水地管理棟であるウォーターヒルズスクエアを砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として位置づけ、まちの賑わい創出を図るため、「砂川地区かわまちづくり」計画を推進しております。

砂川遊水地の自然環境を生かし整備された砂川オアシスパークをよりアウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として再整備するとともに、砂川遊水地管理棟であるウォーターヒルズスクエアを砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として位置づけ、まちの賑わい創出を図るため、「砂川地区かわまちづくり」計画を推進しております。



↑「砂川地区かわまちづくり」のイメージ（資料：北海道開発局）

特集 I Part.2

恵庭市長

恵庭市においては、川とまちが一体となった魅力的なまちづくりを推進しています。令和2年度には、市の中央を流れる漁川沿いに花のまちづくりの拠点施設として「はなふる」を整備しています。

また、「はなふる」に隣接して、国による「恵庭かわまちづくり」として親水護岸等の整備や民間による住宅地の開発を実施するなど賑わいのある良好な水辺空間を創出しており、今後も恵庭らしい魅力的なまちづくりを推進していきます。



↑はなふるの全景（画像提供：恵庭市）

質問6

北海道開発局は、地域と連携して、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用を促進し、北海道らしい地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進していますが、この取組への期待や、自ら取り組む方向性等についてお考えをお聞かせください。

滝川市長

先ほど述べたようなアクティビティのほかに、コロナ禍の影響を逆手に取った、「スカイワーケーション事業」などを進めており、滝川市の地域資源であるグライダーを活用したワーケーション事業を通じ、交流・関係人口の増加による市内経済の活性化を目指しております。今後、「かわたびほっかいどう」プロジェクトと連携した取り組みをぜひお願いしたいと思います。

恵庭市長

恵庭市における川とまちが一体となった魅力的なまちづくりと同様に本プロジェクトは、新たな地域づくりの1つとして期待しているところであります。

今後についても、それぞれの地域が積極的に推進し北海道らしい地域づくり・観光振興が図られることを期待しております。

旭川市長

本市では、河川敷を中心とした旭川サイクリングロードを活用し、アイヌ文化の史跡等をめぐるサイクリングマップを作成いたしました。今後は、旭川市を流れる河川を利用したラフティング等のアクティビティの開発を関係事業者やアウトドアガイドと連携し、進めてまいります。

「かわたびほっかいどう」プロジェクトを推進している北海道開発局には、旭川市の河川環境をさらに観光素材に利用できるようにハード面での整備について、御協力をお願いしたいです。

また、現在、DMO（観光地域づくり法人）と協力して開発を進めているラフティング等のコンテンツが完成した際には、「かわたびほっかいどう」のHP等で紹介していただきたいです。

砂川市長

「かわたびほっかいどう」では、砂川遊水地での「THE 祭」「防災フェスティバル」が紹介され、観光振興を始め、防災イベントなど、北海道の川に関する情報が幅広く発信されています。「かわたびほっかいどう」が地域をつなぐ新たな広域連携と認識しており、今後も推進に期待しております。

特集 I Part.2

札幌市長

北海道の豊かな自然環境を生かした地域づくり・観光振興に貢献する「かわたびほっかいどう」の取組は、地域の経済活動と自然環境の保全を両立する取組ですので、札幌市においても国や関係機関などと連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。

質問 7

平成 23 年度には「石狩川流域圏会議」が発足し、年々活動が深化しています。流域自治体間の連携については、防災や地域振興等、様々な観点が想定されますが、同会議以外のものも含め、連携の現状や今後どうあるべきか、お考えをお聞かせください。

札幌市長

防災に関する情報共有や地域がもつ観光資源の情報発信など、流域圏全体の活性化に貢献する取組が行われています。今後も、流域の豊かな環境や資源を活かした活性化に向け、流域自治体間が連携を図りながら、様々な施策を進める必要があると考えます。



↑ 広報誌の企画で懇談する秋元市長（画像提供：札幌市広報課）

旭川市長

昨年度から旭川市が事務局をさせていただいております、石狩川流域圏会議は、流域にある

市町村が共同で検討し、流域の総合的な発展に資する

ことを目的として発足したものであり、防災や地域振興面においては、構成市町村の職員を対象に豪雨災害対策研修の実施や、サイクリングコースマップの作成、自転車走行会の実施などの活動を行っております。

また、流域自治体間の連携に加え、流域治水プロジェクト、減災対策協議会等との綿密な連携を行い、深刻化する災害に対応する必要があると考えています。



↑ キトウシ国際サイクリングに参加する今津市長（画像提供：旭川市）

特集 I Part.2

滝川市長

石狩川流域圏会議の発足には、滝川市も主体的に関わっています。石狩川流域の全自治体である46市町村が参加した会議は全国的に見ても稀で、非常に高い評価を受けており



↑ 保育所の七夕祭りで子供とふれあう前田市長（画像提供：滝川市）

ます。防災やサイクルツーリズムの取り組み以外にも、活動の幅を広げていくことが期待されています。

今後も様々な活動を通じ、上流、下流の垣根を越えて、流域の横の連携を図ってまいりたいと思います。

砂川市長

流域圏会議において現在進められている事業のほかにも、特にコロナ禍による外国人観光客の減少や食品輸出は北海道経済への影響が大きいことから、流域圏の魅力を国内外に発信し、流域圏全体の活性化を目指す上で、地域の連携がさらに必要と考えております。



↑ 防災フォーラムでコーディネーターを務める善岡市長（画像提供：砂川市）

恵庭市長

恵庭市では石狩川流域圏会議以外に、治水事業に関しては、「北海道千歳川流域治水対策協議会」「石狩川（下流）水系流域治水協議会」「石狩川下流域外減災対策協議会」「千歳川流域治水対策協議会」等で流域自治体間の連携を図っています。それらの会の活動を通して多くの事業が推進されており、今後もこれらの連携した活動が必要であると認識しております。



↑ 訪れる人を花でお出迎えするために駅前で植栽する原田市長（画像提供：恵庭市）

石狩川振興財団より

各市長さんからは、上記以外にも河川行政全般について国等への要望、期待等の回答を頂きました。それらについてはしっかりと北海道開発局等、関係機関にお伝えするとともに、当財団としても流域の安全・安心の確保や活性化に向けた取組など、できる限り役割を果たしていきたいと考えています。



石狩川振興財団の主な出来事

関連する出来事

平成
3,4年

- 平成3年11月 財団の前身である「石狩川振興協会」発足
- 平成4年3月 広報誌「川と人」創刊号の発刊
- 平成4年5月 公益法人として「財団法人石狩川振興財団」発足
- 平成4年8月 小学生やその保護者を対象に「親水体験親子バスツアー」を開催

- H3.11 「第1回石狩川サミット」開催
- H3.12 「今後の河川整備はいかにあるべきか」答申

○寄附行為における財団の目的

石狩川流域の治水事業に係わる地域に密着した情報の提供、イベント等の啓蒙活動及び親水事業を軸とした地域振興計画の立案等を実施することにより河川とその周辺地域との結びつきを深め、もって石狩川流域の健全な発展に寄与する



↑川と人 創刊号



↑堂垣内会長・近藤河川局長ご挨拶



↑親水体験親子バスツアー(川と人vol.1)

平成
5年

- 4月 「川の科学館」(滝川市)の管理・運営業務を開始(来館者対応や河川環境学習活動等を担う)

- H5.11 「第2回石狩川サミット」のサミット宣言
→「石狩川の日」の制定、一人一本「280万本植樹」(※後に300万本に改称)景色



↑川の科学館(滝川市)



↑川の科学館での河川学習

平成
6年

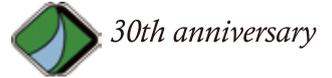
- 4月 「市町村河川情報委員」制度の発足(石狩川流域全48市町村の河川事業担当部長・課長で構成、川に関する情報や川からのまちづくりに関する情報の交換等)
- 7月 「石狩川クリーンアップ作戦」を開始(流域市町村、市民団体等と連携した河川清掃等)
- 7月 森と湖に親しむ旬間行事の企画運営



↑市町村河川情報委員情報交換会議



↑石狩川クリーンアップ作戦の開始(川と人vol.5)



石狩川振興財団の主な出来事

関連する出来事

平成
8年

- 3月 寄附行為の変更（財団の目的：「石狩川流域」→「石狩川等の河川流域」）
- 11月 石狩川振興財団設立5周年記念式典、「石狩川の碑」の発刊



↑石狩川振興財団設立5周年式典・「石狩川の碑」発刊記念

H9.6 河川法改正
（「河川環境」を位置付け、
河川整備の計画に地域の
意見を反映）

H10.6 第6期北海道総合開発計
画策定

平成
11年

- 8月 「水環境フェア'99 in SAPPORO」及び、NPO法人「水環境北海道」と連携して「第9回水環境全国交流シンポジウム」を開催



↑水環境全国交流シンポジウムと共催催事「'99北海道Eポート大会」「豊平川リバーフェスティバル'99」(川と人vol.15)

平成
13年

- 6月 「石狩川振興財団創立10周年記念の森」を造成
（300万本植樹運動と連動した滝川市「石狩川ルネサンスの森2001」と連携）
- 11月 石狩川治水事業の足跡写真集「石狩川治水」を発刊



↑石狩川ルネサンスの森2001(川と人vol.19)



↑「石狩川治水」
綿貫隆夫写真集

H13.1 省庁再編 国土交通省
発足

H13.10 「石狩川」が北海道遺産
に選定



平成
14年

石狩川振興財団の主な出来事

- 5月 「まちづくり・川づくりハンドブック」(広報誌「川と人」特集号)を発刊
- 7月 「市民団体等の非営利団体への支援・助成要綱」を制定
(流域の振興・発展等に貢献する活動をサポート)
- 7月 「北海道 川の日ワークショップ」を開催
- 12月 石狩川治水促進期成会設立50周年を記念して写真集「石狩川 流域発展の礎・治水」を発刊

関連する出来事

H14 石狩川治水促進期成会設立50周年



↑北海道 川の日ワークショップ(川と人vol.21)



↑まちづくり・川づくり
ハンドブック



↑石狩川 流域発展の礎・
治水

〈市民団体等の活動状況〉



↑石狩川下り
(まち・川づくりサポートセンター)



↑サマースカイフェスタ
(滝川スカイスports振興協会)



↑「石狩川ルネサンスの森」育樹
(緑とエコサポーターネット)

平成
16年

9月 調査船「弁天丸」を活用した河川総合学習がスタート



↑調査船「弁天丸」を活用した河川総合学習(川と人vol.26)



H16.6 石狩川水系河川整備基本方針策定

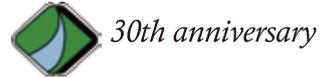
平成
17年

- 5月 「水と緑の川づくり・まちづくり・人づくり」を発刊
(川づくり、まちづくり、人づくりの一体的な取組を提案)
- 8月 寄附行為の変更(財団の目的:「石狩川等の河川流域」→「石狩川等の北海道における河川流域」に変更し、北海道の河川流域を対象に役割を果たすことを明らかに)

H17.4 夕張川、千歳川河川整備計画策定



↑「水と緑の川づくり・まちづくり・人づくり」



平成
18,19年

石狩川振興財団の主な出来事

関連する出来事

・「川の科学館」(滝川市)に加え、平成18年から「川の博物館」(石狩市)、平成19年から砂川遊水地学習館(砂川市)の管理運営、河川教育活動等を担う

H18.9 豊平川河川整備計画策定



↑河川教育活動(川の大切さを学ぶ紙芝居)



↑河川教育活動(川の模型)

H19.9 石狩川(上流、下流)河川整備計画策定

H20.7 第7期北海道総合開発計画策定

H20.12 公益法人制度改革関連3法施行

平成
22年

4月 河川関連事業計画支援業務の受託
(当財団に蓄積している河川・流域情報を活用し、北海道開発局開発建設部、河川事務所等が行う河川関連事業の計画立案、資料作成等を支援)



↑現地研修会



↑担当技術者研修会

・石狩川治水100年記念事業
(治水100年の年表・流域図、石狩川流域の歩みをまとめた「石狩川流域誌」、川にまつわる話を集めてまとめた「石狩川100話」等を作成)



↑石狩川流域図(大正末期)



↑石狩川流域図(現在)



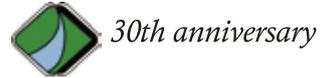
↑石狩川100話



↑石狩川流域誌



↑石狩川流域誌(支川編)



平成
23年

石狩川振興財団の主な出来事

関連する出来事

8月 公益法人制度改革に伴い、「一般財団法人石狩川振興財団」として名称変更、設立登記

H23.3 東日本大震災
H23.11 石狩川流域圏会議設立
(流域圏全体の活性化を目指し全首長が参加)

○定款における財団の目的

石狩川等の北海道における河川流域の治水事業に係わる地域に密着した情報の提供、情報を活用した河川関連事業の支援、イベント等の啓蒙活動及び親水事業を軸とした地域振興計画の立案等を実施することにより、河川とその周辺地域との結びつきを深め、もって河川流域の健全な発展に寄与する



↑石狩川流域圏会議(川と人vol.43)

○公益目的支出計画

継続 1: 石狩川流域連携会議等
継続 2: 石狩川流域環境保全活動
継続 3: 河川情報交換会議
継続 4: 河川教育活動
継続 5: 市民団体等非営利事業への支援・助成等
継続 6: 河川広報活動

平成
25年

7月 「石狩川流域圏会議」と連携し、「豪雨災害対策職員研修」を初開催
12月 同会議の「サイクリングコースマップ検討ワーキンググループ」を初開催

H25.6 河川法改正
(「河川協力団体」が位置付けられる)



↑豪雨災害対策職員研修を初開催



↑流域サイクリングマップイメージ(川と人 vol.37)

H27.9 関東・東北豪雨
鬼怒川等で大水害
H27.12 「水防災意識社会再構築
ビジョン」策定

平成
28年

2月 全道の河川協力団体と河川管理者が一堂に会する「河川協力団体のつどい」を初開催
12月 砂川遊水地において、館内施設案内やイベント等の説明をお願いする「キッズスタッフ」の取組スタート

H28.3 第8期北海道総合開発
計画策定 「食と観光」
H28.8 4つの台風により全道
各地で甚大な被害発生



↑南富良野町の被害状況
(川と人vol.41)



↑河川協力団体のつどい



↑キッズスタッフ認証式



平成
30年

石狩川振興財団の主な出来事

- 7月 「かわたびほっかいどう」のホームページ開設
- 7月 「石狩川流域圏ルート」走行会を流域首長等も参加して開催

川 **かわたび**
ほっかいどう

KAWATABI HOKKAIDO

▲かわたびほっかいどうHP

「水辺っておもしろい！」を満喫できる、初めての情報サイト！

手軽なアクティビティから、施設・イベント情報、さらにグルメな話題まで。北海道の川や水辺境界の楽しみをまるごと伝えてくれる、ワクワクがたっぷりの情報サイトがオープンしました！



かわたびほっかいどう **Search!**

<https://kawatabi-hokkaido.com/>

水辺の観光情報サイト
「かわたびほっかいどう」HP



川に関する情報の発信、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用の促進、地域とのつながりの促進などを進める北海道発のプロジェクト

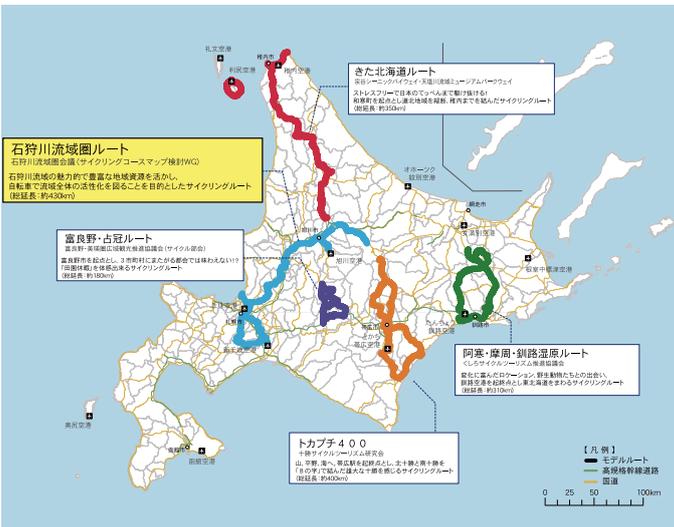


関連する出来事

- H29.2 北海道のサイクルツーリズム推進に向けた検討委員会設置
- H29 かわたびほっかいどうの取組スタート
- H30.9 北海道胆振東部地震
- H30.12 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を閣議決定



↑かわたびほっかいどう(川と人vol.43裏表紙)



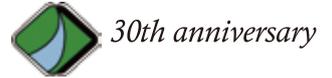
↑北海道サイクルツーリズムの5つのモデルルート(川と人vol.42)



↑石狩川流域圏ルート走行会



↑石狩川流域圏ルート走行会(川と人vol.43)



令和元年

石狩川振興財団の主な出来事

関連する出来事

3月「北海道河川協力団体連絡会議」が発足(石狩川振興財団が事務局を担当)



↑北海道河川協力団体連絡会議

〈河川協力団体の活動状況〉



↑植樹活動(NPO法人 山のない北村の輝き)



↑河川清掃(石狩川下覧権)



↑サケ稚魚放流壮行会(幾春別川をよくする市民の会)

R元.8 北海道サイクルルート連携協議会設置

R元.10「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」(国交省)が提言

R2 新型コロナウイルス感染症が世界規模で拡大

R2.7「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」答申〜「流域治水」への転換



R2.12「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定

令和3年

7月「サイクリングマップ(石狩川全図編)」、石狩川流域全46市町村の名所等を紹介する「見どころガイド」発刊



↑見どころガイド



↑石狩川流域サイクリングマップ(石狩川全図編)

・「かわたびほっかいどう」実施要綱、推進基本方針が定められ、「かわたびほっかいどう会議」開催や「かわたびほっかいどう大賞」選定等を実施(石狩川振興財団がサポートデスクを担当)



↑かわたびプレス



↑かわたび活動報告



↑かわたび大賞贈呈式



↑かわたびほっかいどう缶バッジ

R3.5 流域治水関連法公布

R3.10 石狩川流域圏ルート協議会設立

令和4年

石狩川振興財団設立30周年

(一財)石狩川振興財団ホームページ広報紙『川と人』バックナンバーへ

<https://www.ishikari.or.jp/>

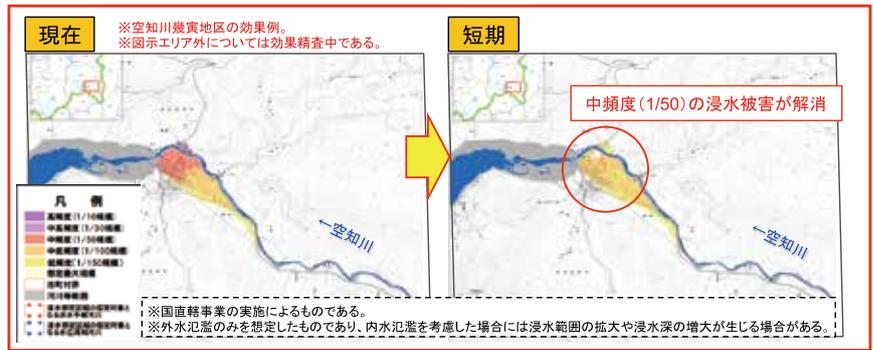


河川 TOPICS - 01

流域治水の実践を加速

令和2年に打ち出された「流域治水」の取組については、河川管理者、都道府県、市町村等の関係者からなる「流域治水協議会」の設置、対策の全体像を示す「流域治水プロジェクト」の策定が流域毎に進められるとともに、令和3年には流域治水関連法が施行されるなどその動きが本格化している。さらに令和4年3月、現場レベルでの実践を加速するため、あらゆる関係者による治水対策が着実に実施されるよう、また、地域での議論を通じて多様な取組へ活かされるよう、前述の「流域治水プロジェクト」に、「流域治水の見える化」、「グリーンインフラの推進」を盛り込むこととした。

「流域治水の見える化」の具体的な取組として、河川整備の事業効果や進捗、関係者による代表的な取組状況をわかりやすく示すため、「水害リスクマップ」を活用した河川整備効果の見える化、主な取組に係る「指標」を活用した流域治水の実践状況の見える化、を新たに開始した。



↑水害リスクマップの例(空知川幾寅地区)

また、「グリーンインフラの推進」として、生物の多様な生息・生育環境の保全・創出、河川と流域の自然環境の連続性の確保、まちづくりと一体となった河川整備や地域の環境と調和する景観の保全・創出など、治水と環境の両立を図る取組を新たにまとめている。

石狩川(下流)水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】 ～北海道における社会、経済、文化の基盤「石狩川流域」を洪水から守るための治水対策を推進～

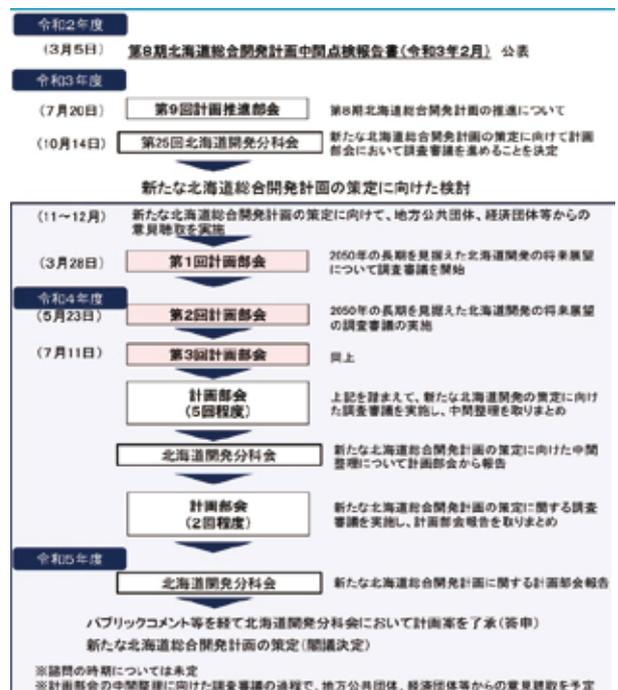


↑流域治水の実践状況を示す指標の例(石狩川下流域)

河川 TOPICS - 02

「新たな北海道総合開発計画」を前倒しで策定へ

北海道総合開発計画は、食、観光、エネルギー、自然、等々、北海道の強みを活かして我が国が直面するその時々の課題の解決のために政府が定める法定計画であり、国、北海道をあげて取り組むべき方向性等を示すものである。ポストコロナやカーボンニュートラルへの対応、激甚化・頻発化する自然災害に対する国土強靱化、加速する人口減少など、北海道開発を取り巻く環境が急速に変化したことを踏まえ、これらに対応する計画が早急に必要との考えから、令和7年度までの現行の8期計画に続く新たな計画を、前倒しで令和5年度にスタートさせることとした。2050年の長期を見据えた「北海道のあるべき姿」を描きつつ、バックキャストイングの手法で検討を進めることとしている。



↑新たな計画の検討スケジュール

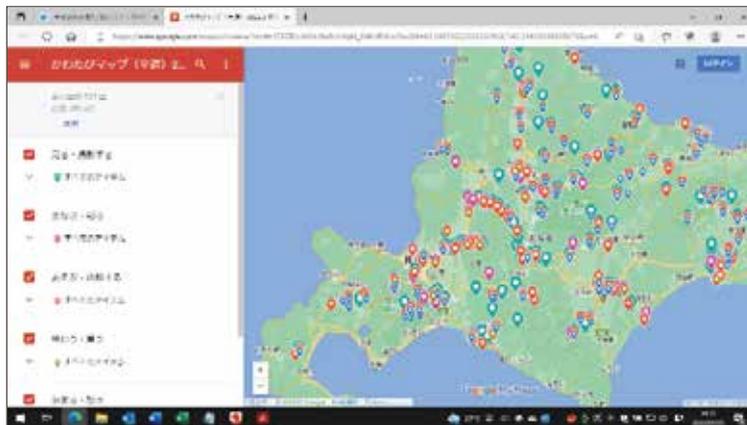
河川 TOPICS - 03

「かわたびほっかいどう」が新展開

北海道開発局では、第8期の北海道総合開発計画を契機に、北海道の豊かな自然と河川に関わる活動を通じ、地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的とする「かわたびほっかいどう」の取組を推進している。同取組がスタートしてから3年が経過し、コロナ禍の影響を受けつつも新たな展開を見せていることから、以下にその主なものを紹介する。

①「かわたびマップ全道版」が完成

北海道の主な河川周辺の「かわたびスポット」(「見る・撮影する」「学ぶ・知る」「あそぶ・体験する」「味わう・買う」「泊まる・憩う」の5つのジャンルで紹介)をgoogleマップ上でチェックすることができる。



↑かわたびマップ全道版

②公式WEB新聞「かわたびプレス」の発行

日頃から河川管理に係わる北海道開発局



↑かわたびプレス創刊号

↑かわたびプレス2号

職員から独自に収集した気になる話題をピックアップして届ける公式WEB新聞。

③「かわたびほっかいどう活動報告」と「かわたびほっかいどう大賞」

令和3年度に実施した取組を広く紹介し共有するためのWeb活動報告会が令和4年1月に開催され、全道各地の活動の中から13件の取組について、一緒に活動した地域の方々と開発局職員が紹介するプレゼンテーションが行われるとともに、優れた活動を表彰する「かわたびほっかいどう大賞」の選考が行われた。同賞は、令和3年度からの新たな試みであり、外部審査員による審査及び開発局職員の投票により、大賞には、「金山風景印(金山郵便局&札幌開発建設部)」「金山ダムや空知川等の水辺

の風景が描かれている南富良野町の3つの郵便局の風景印をスタンプラリー形式で集めながら、地域の魅力にも触れてもらう取組)が、優秀賞には、「うまたび×かわたび(道東ホースタウンプロジェクト&標茶町&釧路開発建設部)」「丘のまちびえいサイクルスタンプラリー(美瑛町&旭川開発建設部)」の2件が選定された。



↑かわたび活動報告(表紙)



↑かわたび活動報告(内面)

いずれも「かわたびほっかいどう」のホームページにその詳細が掲載されている。石狩川振興財団としても当初から同取組を支援するとともに、事務局としてホームページ、SNS等を通じた情報発信、全道の活動のとりまとめ等を担ってきており、引き続き、河川を通じて地域の活性化や振興が図られるよう、北海道開発局や地域の皆さんと連携して取り組む考えである。





令和3年度 河川・海岸協力団体の取り組み

河川・海岸協力団体制度

河川協力団体制度は、河川法に基づき、自発的に河川の維持、河川環境の保全等に関する活動を行うNPO等の民間団体を支援するもので、平成25年度に開設。河川協力団体として活動を適正かつ確実に行うことができると認められる法人等が対象となる。河川管理者に申請を行い、申請を受けた河川管理者は、審査のうえ、河川協力団体として指定する。一方、海岸協力団体制度は、海岸法に基づく同様の制度で、平成26年度に開設された。

河川(海岸)協力団体としてのおもな活動

1. 河川(海岸)管理者に協力して行う河川(海岸)工事または河川(海岸)の維持
2. 河川(海岸)の管理に関する情報または資料の収集および提供
3. 河川(海岸)の管理に関する調査研究
4. 河川(海岸)の管理に関する知識の普及および啓発

石狩川流域の河川協力団体 R4.3 現在

法人等の名称 おもな活動	水系名・河川名	
赤平ラブ・リバー推進協会 河川清掃(植花活動含む)、河川美化啓蒙活動	石狩川・空知川	
幾春別川をよくする市民の会 河川清掃、自然体験学習	石狩川・幾春別川	
石狩川下覧権 河川清掃(川下り、子ども川塾など)	石狩川・石狩川	
栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会 動植物調査、自然体験学習、夕張川に関するシンポジウム等	石狩川・夕張川	
NPO法人 まち・川づくりサポートセンター 河川清掃、自然体験学習、滝川地区地域防災施設「川の科学館」展示物の説明等	石狩川・石狩川	
NPO法人 山のない北村の輝き 河川調査、自然体験学習、植樹、河川管理者と連携した伐木処理	石狩川・旧美唄川	
株式会社 協和コンサルタント 河川清掃	石狩川・美瑛川	
NPO法人 グラウンドワーク西神楽 河川清掃、自然体験学習ほか	石狩川	美瑛川 辺別川
河川愛護団体 リバーネット21ながめま 自然体験学習、子ども水防団の訓練、植樹活動	石狩川	夕張川 嶮淵川
NPO法人 ふらっと南幌 フットパス事業、河川清掃(除草含む)、植物調査、自然体験学習、幌向湿原の調査・勉強会	石狩川	夕張川 旧夕張川 千歳川 石狩川
NPO法人 カラカネイトンボを守る会 あいあい自然ネットワーク 当別地区におけるトンボ類の調査・研究。環境教育、自然観察会、ピオトープ維持保全活動、研究、保全活動、「トンボの学校」の維持保全活動、カヌー下り	石狩川	石狩川 当別川 茨戸川
NPO法人 三笠森水遊学舎 学習・体験活動による社会教育の推進や子どもの健全育成、適正な河川利用と森林環境の保全など	石狩川	幾春別川
株式会社 日興ジオテック 河川清掃、築堤天端除雪	石狩川	美瑛川 忠別川

道内の海岸協力団体 R4.3 現在

法人等の名称 おもな活動	沿岸名・海岸名
白老町環境町民会議 海岸清掃、環境パネル展、海塾、海岸パトロール	日高胆振沿岸・胆振海岸

石狩川流域以外の道内の河川協力団体 R4.3 現在

法人等の名称 おもな活動	水系名・河川名	
NPO法人 後志利別川清流保護の会 河口・河川清掃、自然体験学習、植樹活動	後志利別川・後志利別川	
NPO法人 沙流川愛クラブ 河川清掃、オコタン川湿原周囲環境整備、植樹活動、日高源流域国有林枝打ち活動	沙流川・沙流川	
釧路・リバー・プロテクション・21の会 河川清掃、ヤマバ稚魚放流	釧路川	新釧路川 釧路川
NPO法人 十勝多自然ネット 小学生対象の魚類捕獲と観察・水質測定、農業高校生による湿地の魚類等調査	十勝川	札内川 十勝川
NPO法人 天塩川を清流にする会 カシワの森の移植、河川清掃、ハマナス等の移植、野鳥観察	天塩川・天塩川	
ルルモッペ河川愛護の会 サクラマスの稚魚放流、河川清掃、サクラマスの発芽卵の埋設放流、るもい川まつり	留萌川・留萌川	
NPO法人 しりべつリバーネット 子どもの水辺安全講座、河川清掃、自然体験学習	尻別川・尻別川	
ネイチャー研究会 in むかわ 河口干潟の除草、外来種の防除	鶴川・鶴川	
十勝川中流部市民協働会議 札内川富士築堤工事で消失する野草を相川原生花園へ移植	十勝川・十勝川	
NPO法人 帯広NPO28サポートセンター 河川清掃、自然体験学習、ミズベリング十勝会議	十勝川	札内川 帯広川
NPO法人 タンチョウ保護研究グループ タンチョウをはじめとするツル類を保護のため生息環境等の調査研究、保護への啓蒙活動など	釧路川	新釧路川 釧路川 オソベツ川
釧路自然保護協会 イトウ生息状況調査、サケ・マス産卵床分布調査	釧路川	新釧路川 釧路川 オソベツ川

法人等の名称 おもな活動	沿岸名・海岸名
白老町環境町民会議 海岸清掃、環境パネル展、海塾、海岸パトロール	日高胆振沿岸・胆振海岸



「NPO法人 沙流川愛クラブ」「クリーンウォークとかち実行委員会」が令和4年『河川功労者表彰』を受賞

「NPO法人 沙流川愛クラブ」（平成26年河川協力団体指定）は、平成13年から、沙流川流域において、良好な河川環境の保全や沙流川の魅力を伝える清掃活動、自然観察会などの活動に積極的に取り組み、地元住民の河川愛護意識の醸成に貢献したことが評価された。また、「クリーンウォークとかち実行委員会」（河川協力団体



↑「NPO法人 沙流川愛クラブ」(上:ホテル鑑賞会、左下:河川清掃、右下:表彰式)

である「NPO法人 十勝多自然ネット」「帯広NPO28サポートセンター」が実行委員として参加）は、平成13年から、札内川において「クリーンウォークとかち in 札内川」を毎年開催し、地元企業やNPO団体が河川清掃を行い、河川美化や河川愛護の啓発活動に貢献したことが評価された。



↑「クリーンウォークとかちin札内川」(上:ポスター、下:表彰式)

※「河川功労者表彰」は、昭和24年(1949年)に始まり、以来、治水・利水・環境の観点はもとより、歴史・文化、河川愛護、国際貢献、学術研究、地域振興等の観点から、広く社会に対して功績のあった個人や団体について、日本河川協会が毎年実施しており、今年度は、全国で105の個人・団体が受賞した。

令和3年度「北海道河川協力団体連絡会議」の開催

～昨年度に引き続き全道での管轄事務所意見交換会を経て、全体会は書面開催～

令和3年度の「北海道河川協力団体連絡会議」に係る取組は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止に努めつつ進められた。そのうち「管轄事務所意見交換会」については10月初旬から12月中旬にかけて、各河川協力団体、各河川事務所等の連携により、全道あわせて24団体、13事務所、15回開催され、当年度の活動状況報告、各河川事務所からの情報提供、活動を行う上での要望、課題等の意見交換が行われた。全道の河川

※全体会の書面内容

- ・全道の令和3年度河川協力団体活動内容
- ・令和3年度「かわたびほっかいどう大賞・優秀賞」の紹介
- ・「管轄事務所意見交換会」の要旨、内容整理
- ・テーマ別「分科会」活動の提案と「分科会」エントリー依頼

協力団体等が一堂に会する「全体会」については昨年度と同様、書面開催となったが、上記意見交換会の議論を踏まえ、左記内容について事務局より各河川協力団体等に向けて情報提供され、令和4年度の活動へとつながられた。



↑意見交換会(札幌河川事務所)



↑意見交換会(帯広河川事務所)



↑意見交換会(今金河川事務所)

石狩川振興財団の
活動報告

01

流域環境保全活動・河川教育活動



02

NPO・市民団体等への支援・助成



令和3年度

03

市町村河川情報委員情報交換会議

04

石狩川流域圏会議



01

流域環境保全活動

石狩川振興財団では、石狩川流域 300 万本植樹運動等、流域の緑化活動を支援・推進しています。また、石狩川クリーンアップ作戦など、河川をきれいにする取組を積極的に支援しています。

石狩川
クリーンアップ
作戦



- ・事業対象者／石狩川流域市町村住民
- ・実施場所／石狩川流域市町村の堤防・河川敷等
- ・実施月日／令和3年5月1日～8月7日
- ・参加人数等／27団体、1,598名

事業内容 各市町村の市民団体等と河川敷のゴミ収集を行う



↑たくさんのごみが集まった

01

流域環境保全活動

石狩川流域
300万本植樹運動



- ・事業対象者／石狩川流域市町村住民
- ・実施場所／石狩川流域全域
- ・実施月日／令和3年4月～11月
- ・参加人数等／2,860本、498名

事業
内容

各市町村及び河川団体等と
植樹活動を行う



↑カミネッコンによる植樹

01

河川教育活動

石狩川振興財団では、石狩川の水害や治水の歴史、水利用、流域の風土・水文化、防災、河川環境及び川の安全利用などをテーマに、北海道開発局、NPO等と連携して河川教育活動を実践しています。

調査船「弁天丸」
河川体験学習



- ・事業対象者／札幌市・石狩市・江別市等の小学生
- ・実施場所／茨戸川・石狩川・千歳川
- ・実施月日／令和3年7月～10月
- ・参加人数／195名

事業
内容

調査船「弁天丸」を活用した
河川環境・防災学習



↑川の上から見る景色は別世界

河川学習
(川の模型)



- ・事業対象者／札幌市・石狩市・江別市等の小学生
- ・実施場所／石狩地区地域防災施設・江別河川防災ステーション
- ・実施月日／令和3年7月～10月
- ・参加人数／223名

事業
内容

川の模型を使って遊水地の
役割や洪水について学ぶ



↑川の模型を使って川を学ぶ

01

河川教育活動

河川学習
(石狩川を学ぶ)



- ・事業対象者／砂川市、上砂川町、深川市の小学生
- ・実施場所／砂川遊水地
- ・実施月日／令和3年8月・10月・11月・12月(5回)
- ・参加人数／159名

事業
内容

源流から河口までの川の様子
の確認、石狩川の洪水について学ぶ



↑説明を真剣に聞く児童たち

魚釣り体験



- ・事業対象者／砂川市の小学生他
- ・実施場所／砂川遊水地
- ・実施月日／令和3年7月～10月(7回)
- ・参加人数／184名

事業
内容

砂川遊水地での魚釣り体験



↑釣り方のコツを聞きながら釣ります、大きいのが釣れるかな？

落ち葉アートづくり



- ・事業対象者／砂川小学校1年生
- ・実施場所／砂川遊水地管理棟
- ・実施月日／令和3年10月22日
- ・参加人数／36名

事業
内容

落ち葉アートづくり



↑遊水地をバックに落ち葉を拾う

詳細は 一般財団法人 石狩川振興財団 ウェブサイト <https://www.ishikari.or.jp/> に掲載しています

02

NPO・市民団体等への支援・助成

石狩川振興財団では、NPO や市民団体等が主体となって推進する川を基軸としたまちづくり、環境学習活動及び健康増進活動等に対し支援・助成を行っています。

①NPO・市民団体等への支援・助成

NPO など非営利団体に対して支援・助成を行っています。令和3年度の支援団体名は次のとおりです。

令和3年度 市民団体等支援・助成概要

番号	団体名	新規 継続	番号	団体名	新規 継続
1	石狩川下覧権	継続	21	十勝川中流部市民協働会議	継続
2	砂川子ども水辺協議会	継続	22	キトウシサイクリング実行委員会	継続
3	特定非営利活動法人 まち・川づくりサポートセンター	継続	23	白老町環境町民会議	継続
4	特定非営利活動法人 札幌歩こう会	継続	24	恵庭河川愛護会	継続
5	河川愛護団体 リバーネット21ながぬま	継続	25	オアシスパークからゆめまちづくり協議会	継続
6	特定非営利活動法人 北海道市民環境ネットワーク	継続	26	特定非営利活動法人 エゾシカネット	継続
7	バイオブロック工法普及連絡協議会	継続	27	エコ・ネットワーク	継続
8	特定非営利活動法人 山のない北村の輝き	継続	28	大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会	継続
9	精進川美化緑化の会	継続	29	砂川観光協会	継続
10	道北の地域振興を考える研究会	継続	30	認定NPO法人 カラカネイトトンボを守る会	継続
11	たきかわ子ども水辺協議会	継続	31	支笏ガイドハウスかのあ	継続
12	特定非営利活動法人 当別エコロジカルコミュニティー	継続	32	中川町観光協会	継続
13	特定非営利活動法人 ダウン・ザ・テッシ	継続	33	砂川レイクサイドの会	新規
14	特定非営利活動法人 ふらっと南幌	継続	34	特定非営利活動法人 オアシス	新規
15	公益社団法人 滝川スカイスポーツ振興協会	継続	35	ゆうばり de 冬あそび実行委員会	新規
16	特定非営利活動法人 沙流川愛クラブ	継続	36	特定非営利活動法人 三笠森水遊学舎	新規
17	徳富川ラブリバー推進協議会	継続	37	ハーブの小径を愛する会	新規
18	特定非営利活動法人 江別における持続可能な commons のためのしくみ (ミズベリング江別事務局)	継続	38	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ ルート運営代表者会議	新規
19	特定非営利活動法人 天塩川を清流にする会	継続	39	釧路自然保護協会	新規
20	ネイチャー研究会 in むかわ	継続			



↑単座機ラインナップ風景 (滝川スカイスポーツ振興協会)



↑紅葉ツーリング (特定非営利活動法人ダウン・ザ・テッシ)



↑ながぬま緑の少年団 (リバーネット21)



↑花壇 (恵庭河川愛護会)

②公益目的事業による支援

石狩川流域の振興に資する各種大会、イベントなどに協賛し、その活動を支援しています。

令和3年度 公益目的事業支援概要

番号	団体名	新規 継続
1	公益財団法人 ツール・ド・北海道協会	継続
2	かなやま湖太陽と森と湖の祭典実行委員会	新規
3	他	

04

石狩川流域圏会議

石狩川流域圏会議は、石狩川流域全 46 市町村の首長から構成されており、平成 23 年に発足しました。石狩川振興財団は、石狩川流域圏会議の活動と連携しながら、石狩川流域の活性化に努めています。

1. 豪雨災害対策職員研修

石狩川流域圏会議では、水害経験のある市町村職員が減少していることを踏まえ、石狩川流域市町村の豪雨災害担当者を対象に、平成 25 年度から豪雨災害対策職員研修を実施しています。令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて中止となりましたが、令和 3 年度については、受講者が一堂に会して行う研修会に代えて、e ラーニング方式による Web 研修とオンラインによる意見交換会を組み合わせることで 8～9 月に実施しました。e ラーニング研修では、北海道大学の今客員教授による豪雨災害時の対応についての講話、北海道開発局、北海道、旭川地方気象台による防災、気象、河川情報に

関する基礎知識等の講義、さらに当財団担当の危機管理演習等を適宜受講してもらうとともに、後日、オンライン意見交換会を危機管理演習の解説や避難率向上等をテーマに行いました。受講する際の時間的な制約を少なくできるなど、多くの職員の参加が期待できる一方、参加者同士の対面での交流・連携を深めることが難しいなど、今後の研修方法を考える際の良い検討材料が得られたと思われます。



↑ Web を活用した研修の様子

2. サイクルツーリズムの推進

石狩川流域圏会議では、自転車で石狩川流域を結びつけ、流域全体の活性化を図ることを目指して、石狩川流域圏ルートの設定やサイクリングコースマップづくり等に取り組んでいます。令和 3 年度は、前年度に検討した「サイクリングマップ（石狩川全図編）」と全流域 46 市町村の名所等を紹介する「見どころガイド」の原案を完成させ、流域市町村やルート沿いのサイクルショップ 32 店、新千歳空港、旭川駅に頒布しサイクルルートの PR を行ったほか、新型コロナウイルス感染拡大防止に

配慮しつつ、10～11 月に旭川、滝川、千歳の 3 箇所で行行会を実施し、ルートの課題や改善点等の検討を行いました。また、令和 3 年 10 月に石狩川流域圏会議、札幌・旭川の両開発建設部、両建設管理部を構成メンバーとする「石狩川流域圏ルート協議会」が発足、同年 12 月に「北海道サイクルルート連携協議会」への応募が受理され、同連携協議会と連携・協働する道内 8 番目のルート協議会となりました。今後の本格展開が期待されます。



↑ マップ等の頒布（新千歳空港）

石狩川振興財団は「かわたびほっかいどう」を推進しています。



かわたび
ほっかいどう



▲かわたび
ほっかいどうHP

KAWATABI HOKKAIDO

「水辺っておもしろい！」を満喫できる、初めての情報サイト！

手軽なアクティビティから、施設・イベント情報、さらにグルメな話題まで。北海道の川や水辺境界の楽しみをまるごと伝えてくれる、ワクワクがたっぶりの情報サイトがオープンしました！



かわたびほっかいどう

Search!

<https://kawatabi-hokkaido.com/>

水辺の観光情報サイト
「かわたび北海道」HP

川に関する情報の発信、魅力的な水辺空間の創出、水辺利活用の促進、地域とのつながりの促進などを進める北海道発のプロジェクト

川のアクティビティ(空知川上流のラフティング)



水辺のイベント(豊平川の川見)



冬でも水辺利用(砂川遊水地ワカサギ釣り)



豊平峡ダム見学ツアー、ダムで貯蔵したワイン



河川沿いのサイクリングと青い池(美瑛川かわまちづくり)



一般財団法人 石狩川振興財団

●発行 令和4年8月

●住所 〒001-0011

北海道札幌市北区北11条西2丁目2番17号

セントラル札幌北ビル2階

TEL:011-299-7755 FAX:011-299-7550

●ホームページアドレス <https://www.ishikari.or.jp/>

※表紙写真:川の科学館(滝川市)に隣接する石狩川の旧川(ラウネ川)です。かつての捷水路工事により残された旧川が、カヌー等の水面利用や公園、河畔林再生や自然体験の場としてなど、川づくり・まちづくり・人づくりに活かされています。

